

# 携帯電話—固定電話アダプタ (Bluetooth 接続)

製品型番 : TTR-ADPT1-BT

## 付加機能説明書

### 目次

1	ダイヤル入力のトーン変換機能 .....	1
2	A2DP/AVRCP 機能(メディア再生の操作) .....	2
3	通話アプリ機能 .....	3
4	設定モード .....	5
4.1	ダイヤル入力のトーン変換機能 .....	5
4.2	A2DP/AVRCP 機能 .....	5
4.3	通話アプリ機能 .....	5

本説明書では「携帯電話ー固定電話アダプタ (Bluetooth) 取扱説明書」で省略した機能について説明します。

## 1 ダイアル入力のトーン変換機能

本製品にダイヤル式電話機(黒電話など)を接続した際、ダイヤルを回すとトーン信号に変換する機能です。本機能は初期設定ではオフになっています。(設定方法は 4.1 節参照)。

本機能は以下の場合に使用できます。

- 1) 電話番号入力中：\*、#を含む電話番号を入力し、発信できます。
- 2) 通話中：自動音声応答(IVR)システム等の利用時に、0～9、\*、#を送出できます。

各信号を入力・送出する方法は以下の通りです。

0～9：普通に0～9をダイヤル

\*：フッキング(※)に続いて1をダイヤル

#：フッキング(※)に続いて2をダイヤル

フッキング時には受話器から「ボビ(音程が低い→高い)」と鳴り、シフト状態になります。

シフト状態の時に\*、#が送出できます。(送出後、シフト状態は解除されます)。

再度フッキングすると「ピボ(音程が高い→低い)」と鳴り、シフト状態が解除されます。

トーン信号が送出されると、受話器から「ブ」と音が鳴ります。(こちら側には番号毎に異なるピボパ音は鳴りません)。

※フッキングとは、通話中に電話機のフックを手で押し下げた後、0.3 秒以上 1 秒以内に戻す操作です。

※本機能を有効にするとオンフックの検出に 1 秒かかるようになるため、通話を終える際などはしっかりと受話器を置くようにしてください。

※通話先がこちら側の携帯電話と同じキャリアの携帯電話の場合(例：自分も通話先もドコモの場合など)、トーン信号が送出されない場合があります。通話先が固定電話の自動応答システムの場合には、問題ありません。

## 2 A2DP/AVRCP 機能(メディア再生の操作)

スマートフォンの音楽などメディア再生の音を電話機の手話器で聞くことができます。

操作方は以下の通りです。(この機能は初期設定ではオフになっています。オンにする方法は 4.2 節を参照してください)。

1) まず、手話器を上げて「7」を入力してください。手話器から「プ」と音がして、メディア操作モードになります。

(前節の操作で音声アシスタントを起動しても、メディア再生モードになります。)

2) 次に、1桁の番号を入力してください。可能な操作は下表の通りです。

番号は繰り返し入力できます。

3) 手話器を置くと再生を停止し、メディア操作モードを終了します。

番号	コマンド
1	再生開始
2	再生停止
5	次の曲へ
6	前の曲へ
9	音声アシスタント停止
0	音声アシスタント開始

※A2DP 機能のオン・オフを切り替えた際はスマートフォンのペアリングを一旦解除してから、再度やり直して下さい。

※A2DP を有効にしていると、音楽再生・動画再生アプリの音、ゲームの音なども手話器に送られるため、スマートフォン本体からこれらの音が出なくなります。アラームなど一部の音はスマートフォン本体から鳴ります。

※A2DP をオンに設定すると、Bluetooth 機器の最大接続台数を 2 台に設定しても、1 台のみになります。

※Android スマートフォンの場合は、A2DP が有効になっているかを以下の方法で確認できます。

黒電話と接続中に、Bluetooth 設定画面で「kurodenwa」右側の歯車アイコンをタップして、「メディアの音声」の設定にて

### 3 通話アプリ機能

本製品を使用した通常の通話 (070/080/090 電話番号) は Bluetooth の HFP (ハンズフリープロファイル) の通信を使用します。

しかし、スマートフォンの通話アプリ (Apple Facetime, Google Duo, Skype, LINE, Rakuten Link 等) や IP 電話 (SMARTalk, Viber 等) は完全には HFP に対応していません。通話アプリの着信・発信時の動作は以下の表の通りです。

※以下の説明は全てのスマートフォン・OS・アプリでの動作を保証するものではありません。

- ・通話アプリの着信時にスマートフォンからも固定電話からも着信音が鳴らない
- ・通話デバイスの切り替え (スマートフォン本体または固定電話の受話器) がうまくいかないなどの不具合が発生する場合があります。

また、今後のアプリ・OSアップデートに伴い、動作が変わる可能性があります。

※本機能により、通話アプリだけでなく、通常の電話の通話に不具合が発生する可能性があります。その場合には 4.3 節に従って「通話アプリを使用しない」に設定を変更してください。

通話アプリ機能 (4.3 節) を有効にした場合の動作

iPhone の場合	
着信時	スマートフォン本体から着信音が鳴る。固定電話で通話開始・通話が可能 (※1 動作)。 (※5 操作)、(※6 操作)を確認のこと。
発信時	スマートフォン本体で発信操作が必要。 1) スマートフォン本体から発信音は鳴らない。(※3 動作)。 2) (※7 操作) にて発信することも可能。 (※5 操作)、(※6 操作)を確認のこと。
Siri 起動時	4.3 節設定値が 3 の場合: スマートフォン本体から Siri の音声入出力ができない。(※3 動作)。 4.3 節設定値が 7 の場合: スマートフォン本体で Siri の音声入出力が可能。

Android スマートフォンの場合	
着信時	スマートフォン本体から着信音が鳴る。固定電話で通話するにはスマートフォン本体で着信操作が必要 (※2 動作)。アプリによっては、着信操作後に (※3 動作)。 (※4 注意)、(※5 操作)、(※6 操作)を確認のこと。
発信時	スマートフォン本体で発信操作が必要。 1) スマートフォン本体から発信音は鳴らない。(※3 動作)。 2) (※7 操作) にて発信することも可能。 (※4 注意)、(※5 操作)、(※6 操作)を確認のこと。
音声アシスタント 起動時	4.3 節設定値が 3 の場合: スマートフォン本体からアシスタントの音声入出力ができない。(※3 動作)。 4.3 節設定値が 6 の場合: スマートフォン本体でアシスタントの音声入出力が可能。

4.3 節の設定を 6 にした場合、本節の動作をしません。

スマートフォン・通話アプリによっては、上記の表とは動作が異なる場合があります。

固定電話への着信は無く、そのままスマートフォン本体で発信・着信・通話ができる場合があります。また、固定電話での通話が全くできない場合があります。

**(※1 動作) :** 着信時動作 (通常着信と同様動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は、発信元固有の番号が表示される場合と、非通知と表示される場合があります。)

- a) 固定電話の受話器を上げると、固定電話で通話できます。受話器を置くと、通話が終了します。
- b) スマートフォンで通話をしたい場合、スマートフォンで着信操作を行った後、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

**(※2 動作) :** 着信時動作 (通話アプリ特有動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は「0000」と表示されます。)

- a) 固定電話の受話器を上げ、さらにスマートフォンで**着信操作**をすると、固定電話で通話ができます。**受話器を置いても、通話は終了しません。**(※4 注意)参照。
- b) スマートフォンで通話をしたい場合、スマートフォンで着信操作を行った後、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

**(※3 動作) :** 発信時動作 (通話アプリ特有動作)

固定電話に着信がある。(ナンバーディスプレイ対応電話機の場合、発信元電話番号は「0000」と表示されます。)

- a) 固定電話の受話器を上げると、固定電話で通話ができます。**受話器を置いても、通話は終了しない場合があります(特に Android スマートフォンの場合)。**(※4 注意)参照。
- b) スマートフォンで通話をしたい場合、(※5 操作)の方法で通話デバイスを切り替えてください。

**(※4 注意) :** 通話が終了しない場合

通話アプリ・スマートフォンの種類によっては、固定電話の受話器にて通話中、**受話器を置いても通話が終了しない場合があります。**この場合、スマートフォン本体での通話に切り替わり、通話は続いていますので注意してください。通話を終了するにはスマートフォンで通話終了の操作が必要です。

**(※5 操作) :** 音声パス切り替え

通話アプリによっては使用するデバイスを切り替えることができます。通話中の画面で、スピーカーや Bluetooth のアイコンをタップしてください。

「スピーカー」／「イヤースピーカー」／「iPhone」などはスマートフォン本体での通話になります。

「Bluetooth」や「TTR-ADPT1」などは本製品に接続した固定電話での通話になります。

スマートフォン本体から Bluetooth に切り替えた場合、固定電話に着信があり、受話器を上げると固定電話で通話ができます。上記(※3 動作)参照。

また、先に受話器を上げてから Bluetooth に切り替えると、固定電話への着信を省くことができます。

**(※6 操作) :** 固定電話から音声パス接続

スマートフォン本体にて通話中、固定電話の受話器を上げて機器番号(「1」～「5」)を入力すると、固定電話で通話できます。(通話アプリ・スマートフォンによっては、できない場合もあります)。

**(※7 操作) :** 音声パス切り替えの省略方法

以下の方法で、固定電話への着信を省き、素早く固定電話で通話が開始できます。

固定電話の受話器を上げた後、通話アプリで発信・着信操作をしてください。

受話器からは、最初は「ツー」という発信音がしますが、スマートフォンと接続されると発信音または通話に切り替わります。

## 4 設定モード

機能の設定は設定モードにて行います。

操作方法については、取扱説明書の「設定モード」の章を参照してください。

### 4.1 ダイヤル入力のトーン変換機能

機能番号	設定値	機能説明
151	0, 1, 2 (0)	ダイヤル式電話機で通話中、ダイヤルを入力するとトーン信号 (DTMF) に変換して送出する機能です。有効にする場合は「2」を設定してください。 0:機能オフ (1:フッキング検出のみオン) 2:変換機能をオン

### 4.2 A2DP/AVRCP 機能

機能番号	設定値	機能説明
393	0~3 (0)	Bluetooth の A2DP プロファイル(メディアの音声), AVRCP プロファイル(メディアの操作) を有効にします。メディア再生・操作を行う場合は「3」を設定してください。 この設定を行うと、自動的に本製品が再起動します。 この際、携帯電話のペアリングも一旦解除してやり直して下さい。 0:機能オフ (1:HSP をオン 2:HSP, AVRCP をオン) 3:HSP, AVRCP, A2DP をオン

### 4.3 通話アプリ機能

機能番号	設定値	機能説明
381	0~7 (0)	0:オフ(通話アプリを使用しない) 1:オン (iPhone iOS11 以前/Android 用) 2:オン (iPhone iOS11 以前用) 3:オン (iPhone/Android 用) 6:携帯電話本体でも通話をする (Android 用) ・通話アプリを使用しない 7:携帯電話本体でも通話をする (iPhone 用) 最近のスマートフォンで通話アプリを使用する場合は3を設定してください。



